

令和元年度 福岡ひまわりの里 事業報告

【 事業概要 】

令和元年度は、基本方針である①利用者の年齢や障がい特性に配慮した支援②専門性の向上と法令遵守に努めた支援③共生社会実現に向けた社会参加の推進を念頭に、関係機関や団体、他施設や事業所、地域等と連携し、利用者一人ひとりのニーズに合わせた福祉サービスの提供に取り組みました。

利用者支援については、利用者の意見を反映しニーズに沿った支援に努めました。また、高齢化にともない機能回復訓練（リハビリ活動）や通院時の相談、訪問看護等外部の専門的な視点からの助言を得て、各利用者に合った活動や環境設定を行いました。加齢化に伴う健康面での医療ケアにつきまして、看護師を中心に医療機関や嘱託医と連携し対応しました。余暇支援は、支援員や外部講師によるクラブ活動の実施やスポーツ教室の参加をとおして楽しく過ごせるように努めました。

事業運営では、老朽化する施設設備や高齢化する利用者等、多数の課題を踏まえ、移転新築に向けた協議を、法人、保護者と「福岡ひまわりの里のあり方検討会議」にて検討し、移転新築に向けて計画的に進めています。また、職員配置を厚くすることで利用者支援の幅を広げようと企図しましたが、十分増員することはできませんでした。

以下、項目ごとにご報告いたします。

1 利用者状況

令和2年3月31日現在

項 目	内 容		
平均年齢	53, 8歳（24歳～77歳）		
職員数	施設長・副施設長・支援員21名・看護師3名・他3名		
利用者居住区別	東区7名、博多区2名、中央区2名、南区12名、城南区3名、早良区8名、西区12名、その他2名 計48名		
事業別利用者数・定員	利用者（定員）	男 性	女 性
生活介護・施設入所支援	48（50）	32	16
合 計	48（50）	32	16

2 年間開所日数及び利用者数（一日平均利用者数）

生活介護	269日	12975人（48.2人）
施設入所支援	365日	17705人（48.5人）

3 事業別活動状況

(1) 生活介護・施設入所支援

①日常生活支援

食事サービスについては、利用者に対する嗜好調査（リクエストメニュー）や支援員の意見を参考に、毎月1回給食委託業者との会議を開催しました。会議での内容を、翌月以降の献立や食事内容に反映できるように努めました。利用者35名の食事に関しての支援や配慮（刻み食やリハビリ食器使用等）を必要とする28項目について、配慮表を作成しました。また、高齢化・機能低下にともない、食堂での食事が難しい利用者については、安全面に配慮し、娯楽室や居室にて支援しています。給食委託業者厨房スタッフ、看護師、支援員で、日々打ち合わせを行い、利用者が安心して楽しく食事をしていただけるよう支援をしています。散髪については、1～2ヶ月に1回、利用者約30名が島外に支援員引率のもと行っていました。季節によって外出が難しい利用者も増えてきました。そこで、出張美容師に2か月に一回来訪してもらい、散髪を行ったところ利用者からは賛成の意見が多かったため、選択できるように毎回散髪の確認を行っています。また、島外での散髪が難しい方は施設内で実施しています。

入浴支援については、日曜を除く、月曜から土曜、祝日に実施いたしました。体力的に、毎日の入浴が難しい利用者については、記録表を作成し、衛生面に配慮した支援を行っています。

②社会生活支援

地域移行に向けた取り組み

就労や地域移行への希望者のニーズに対して、利用者や保護者との面談を通して今後の展望などを支援員や相談員と話し、情報提供等を行いました。

③日中活動支援

生活支援

健康観察、整容、着衣、歯磨き、持ち物の整理や居室の掃除、シーツ交換、洗濯、トイレ使用など、利用者個々に合わせた支援を個別支援計画に沿って行いました。

作業活動

農耕作業班、陶芸作業班、自立作業班、健康維持活動と、利用者のニーズに沿った作業の提供に努めたが、職員配置や利用者状況により、小グループでの創作活動の時間がふえました。作業活動の在り方を見直しそれぞれの利用者に合った活動が提供できるようにします。

機能回復訓練（リハビリ活動）・リフレッシュ体操

月に2回、筋力に衰えが見える利用者を対象に、理学療法士により機能回復訓練（リハビリ活動）を行い、身体機能の維持に努めました。また、リフレッシュ体操として、ラジオ体操や音楽に合わせての手足運動を日課の中に適宜取り入れています。

（2）短期入所利用状況

利用者 5名

利用回数 217日

利用理由

保護者の体調や、在宅での生活が困難になった方が利用されました。
また、長期利用された方が2名いらっしゃいました。

4 余暇支援

（1）余暇活動

①クラブ活動

外部講師指導のもと、毎月1回、茶道、音楽、絵画のグループに分かれて実施しました。茶道は1月に公民館を利用して初釜を行いました。絵画クラブの利用者は、福岡市障がい児・者美術展に出展し、1名が入賞しました。

②ハンドベル演奏

外部講師指導のもと、月1回土曜日の午後から1時間程度、練習を行いました。発表の機会として、施設行事、ふくふくフェスティバルに参加し演奏発表を行いました。

③誕生者外出・グループ外出

誕生月の利用者やニーズの合う小グループの利用者の希望を受けて、引率する支援員とプランを立てて外出を行いました。福岡市やその近郊、また、誕生者外出では島内の外出も企画し、利用者の楽しみな行事の一つになっています。

④ひまわりタイム・くつろぎタイム

ひまわりタイムは毎週火曜日と土曜日の午後に、食堂でおやつとコーヒーやお茶を提供しました。くつろぎタイムは毎月第2、第4土曜日の19時から食堂で希望者にビールもしくはノンアルコールビールとおつまみを提供しました。

（2）休日余暇活動

休日に会議室を開放し、利用者の希望をもとにレンタルしたDVDの鑑賞をしたり、支援員と戸外を散歩したり、また施設内で、お菓子の販売やジュース自販機の利用をしたり、楽しく過ごしていただくように努めました。

(3) イベントや招待行事等

プロ野球観戦（6月、8月）に、招待を受け参加しました。

スポーツ教室

ボウリング教室はスポガ香椎に場所が変更になったため、教室には参加せず、個別に練習に行きました。利用者6名が参加しています。また、年6回のフライングディスク教室に利用者4名が参加しました。

5 健康管理と防火管理等

①健康管理

利用者の健康状態を把握し、必要に応じて各病院への通院、連携に努めましたが、女性利用者が10月死去されました。

利用者の加齢によるものか、消化器系疾患、膀胱障害、視力低下、高血圧などが増えている傾向にあります。今後も引き続き、医療機関、看護師、支援員が日々の連携を密にして、緊急時の対応なども含め利用者が健康で過ごせるよう支援に努めます。

検診につきましては、健康診断年2回、精神科検診年4回、耳鼻科、歯科検診を年1回実施しました。日々の通院に関しては、利用者の加齢に伴い通院の頻度が増えています。そのため、日々の生活の中で未然に疾病を予防できるよう努めています。また、通院時の移動の安全を考慮して航送の頻度を増やしています

②感染症対策

感染症が出た場合は施設内の消毒、マスク着用、防火扉の使用、居室食等にて対応し、拡大防止に努めます。今後も主に、冬季のインフルエンザ、ノロウイルス対策として、施設内の手すり、ドアノブ等の消毒、殺菌料製剤による手指消毒、乳酸菌飲料飲用による免疫力向上、居室の加湿器使用等を実施するとともに、関係機関とも連携をとって対策を進めています。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止としても継続しておこなっています。

③避難訓練、防災、非常時対策

年4回の避難訓練を実施しました。夜間帯を想定した訓練も実施しています。避難訓練時、地域の福祉施設、事業所の職員に立会いを依頼し、

地域福祉施設、事業所間での災害時協力体制強化を図っています。施設職員1名の能古消防分団入団、また、地域にある福祉施設、事業所で災害時協力体制がとれるよう協定を結ぶ等、施設と地域の連携強化に努めています。福岡ひまわりの里防災計画を策定しており、非常時、災害時における通報・連絡体制等の整備に努めています。

夜間帯等の利用者の突発的な行動に対する安全確保のため、赤外線センサー、見守りカメラを設置していますが、犯罪防止や抑制効果としても運用しています。

6 その他の取り組み

(1) 旅行・日帰り旅行等

10月に一泊旅行で長崎方面に、日帰り旅行でヒルトンシーホークに行きました。また、3月のバスハイクは、新型コロナウイルスの影響のため、館内でレクリエーションを実施しました。その他にも利用者が楽しみにしている、ハイキングやバーベキューを行いました。

(2) 利用者代表会（本人活動）

利用者代表として7名の利用者と月に1回、施設の運営等について意見交換を行いました。日々の生活、行事や食事について、また、利用者全体会で出された意見、要望について検討し、その意見が反映されるように努めました。

本人の声を聴く会

8月に福岡市市民福祉プラザで開催された本人の声を聴く会に発表者と準備委員として各1名利用者が参加しました。

(3) 保護者会との連携

保護者会を偶数月で年6回開催し、施設の運営状況等について説明し理解、協力を求め意思の疎通を図りました。また、保護者役員との意見交換会に参加し協力体制等の確認をおこないました。

(4) 職員研修

法人主催の専門研修や一般研修、県社協や市社協の研修、強度行動障害支援者研修等に職員を派遣するとともに、嘱託医である中庭洋一医師の精神科に関わる研修、施設内での定期的な事例検討や虐待防止研修、権利擁護研修を行いました。また、社会福祉法人徳和会の小山田望氏に年間をとおして今後の高齢化に向けた介護支援の向上と、介護技術の課題について学びました。併せて、なかにわメンタルクリニック精神保健福祉士による訪問看護をとおし、支援技術や専門知識の習得に努めました。また、理学療法士の機能回復訓練（リハビリ活動）をとおし、支援員も

日常生活でリハビリの視点を持って支援を行えるように取り組んでいます。

(5) 他機関、団体との連携

主に特定相談支援事業所ひまわりと連携し、サービス等利用計画に伴うモニタリングや担当者会議等、保護者、後見人の協力を得ながらスムーズにできました。

また、福岡市民間障がい施設協議会、福岡県知的障害者福祉協会、能古校区福祉施設会議、能古校区青少年健全育成連絡協議会などの活動を通じて、関係団体や地域との連携に努めています。

7 地域との交流

能古中学校3年生の福祉体験学習を実施しました。生徒からは、利用者と活動ができて楽しかったと感想が出ていました。

能古校区夏祭りと能古校区体育祭を地域との共催のイベントとして開催しました。地域の方と一緒に、利用者、職員も楽しみな行事の一つです。6月に地域交流会を能古公民館にて行いました。利用者のハンドベル演奏等のステージイベント、作品販売、日中活動のパネル展示等をとおして、地域の方々に施設のことをより知ってもらえるように取り組みました。

法人内の事業所による製品販売も協力いただきました。

毎月1回程度、利用者5～6名のメンバーを選出し、地域清掃を実施しています。地域の道路や公園、海岸などを清掃し地域から喜ばれています。

8 苦情受付状況

利用者との普段からの関わり、保護者会や日々の保護者との連絡等で気軽に相談できる環境作りに努めました。今年度は苦情の申し出はありませんでした。入所施設というシステム上、職員朝礼や会議等で虐待事例の検討や虐待報道の内容について会合を行い、日頃から利用者の権利擁護に配慮した取り組みを行いました。また、職員の行動宣言、スローガンを策定し、職員朝礼時に唱和することで、職員の意識付けを強化しています。

9 地域における公益的な取り組み

「ふくおかライフレスキュー事業」に参加し、区別地区で行われる連絡会に参加しました。今後、サポーター養成研修の受講等を含め、取り組み方について検討しています。